

派遣先所属 福島県原子力センター 氏名 片山 貴博 (かたやま たかひろ)  
添田 喜栄 (そえだ よしえい)

派遣期間 平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

## 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の福島県原子力センターは福島県庁生活環境部の出先機関であり、東京電力(株)福島第一・第二原子力発電所周辺及び県内環境中における放射性核種の動態監視を主な業務としています。

具体的には、県内各地における①空間線量の測定、②環境試料（上水・海水・河川水・湖沼水、土壌、大気中のちり・ほこり、降下物、植物等）中に含まれる放射性核種の分析などです。

震災から2年半が過ぎましたが、県内には、いまだ除染が十分にされておらず、線量が高い地域があります。また、様々な風評被害も発生しており、今後も県民のニーズに応じて、様々な環境試料を分析していくこととなるでしょう。

私達の担当業務は「持ち込まれた試料のγ線分析」と「国及び県災害対策本部への分析結果報告」で、千葉県、山梨県、京都府職員と埼玉県職員2名の計5名で作業を行っています。

具体的には、「検体の受入」→「検体の前処理」→「測定」→「測定結果の解析」→「国及び県災害対策本部への分析結果報告」を行っています。検体数は毎月 500 件程度で、それ以外に原発の関係で急なサンプリング作業、分析作業が入ることもあります。

「検体の前処理」では、検体を分析専用の容器につめる作業で、検体が固体の場合、切り刻んで細かくする、乾燥した後、灰化するなどの処理を行います。

「測定」では、ゲルマニウム半導体検出器という機器を用いて、検体中に何の放射性核種がどれぐらい含まれているのかを測定します。

「測定結果の解析」では、得られた測定結果の分析条件が正しいか、検出された放射性核種が自然由来なのか人工由来なのか、検出された放射性核種に妥当性はあるかなどを確認しています。

「国、福島県災害対策本部等への報告」では、報告内容にミスがないか等を必ず二人以上で確認して、報告しています。ここで報告したデータがそのまま公表されるので、ミスがないよう細心の注意を払って業務を行っています。



写真1 検体の前処理の様子



写真2 ゲルマニウム半導体検出器による分析

## 2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想 (添田)

直接の業務ではありませんが、先日、出張の際に福島県の富岡町を通りました。

ここは、津波でかなりの被害を受けた地域で、現在も居住制限区域（放射線の年間積算線量が20mSvを超えるおそれがあり、引き続き避難の継続を求める地域）に指定されている場所です。

福島市内では、震災の影響を感じる場所は少ないですが、このような避難指示区域内には、まだまだ震災の傷跡を色濃く残す場所が多くあります。

現在、県内の除染作業はかなり進んでおり、復旧・復興については一定の成果を挙げています。しかし、その一方で、まだ除染の計画も立っていない地域もあり、多くの課題を残しています。

私たちの業務は、福島県の復興に向けた最前線の仕事です。避難されている方々が一刻も早く、帰宅できるように、業務に励んでいきたいと思えます。



写真3 富岡駅（富岡町）の様子

## 3 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想 (片山)

福島県は桜がきれいなところです。

福島県は桃が美味しいところです。

福島県には美味しい日本酒がいっぱいあります。

福島県には温泉がいっぱいあります。

福島県にはスキー場がいっぱいあります。

みなさん、是非、福島県にお越しください。



写真4 福島県は紅葉がきれいなところです。(浄土平にて)